鶴見鋼管の「ＧＥＴ100！」

スローガン掲げ100年企業へ

生産性1割増目指す
小集団活動で交流活性化

今年1月に設立75周年を迎えた日本製鉄系の引抜鋼管メーカー、鶴見鋼管（本社＝福島県いわき市、羽田憲治社長）は、100年企業を目指す中で、スローガン「GET100！」を掲げ「現場・現物」に基づく「リスク低減」活動、「現場力向上の徹底追求＝元気で・明るく・楽しく・働きやすい」職場づくりの3本柱を全社活動方針として進めている。2024年度は活動の効果的な振り返り（リフレクション）により、新たな気付きを得て行動につなげる年とする方針だ。

鶴見鋼管の全社スローガン「GET100！」は、災害・環境防災事故ゼロ（0）、品質事故ゼロ（0）、生産性1割アップを目指している。重要基盤である現場（Genba）・現物・人、設備（Equipment）、技術（Technology）のほか、伸ばすもの として元気・活力（Genki）、進化・革新（Evolution）、信用・信頼（Trust）の頭文字をスローガンに採用した。

組織・業務運営体制を見直すべく21年から「小集団活動」（班単位）の取り組みをスタート。現場の係長、班長がけん引役となり職場内のコミュニケーションを活発化させたことで労働の質が向上し、心身の健康とともに、モチベーションアップにもつながっている。

福島県いわき市にある鶴見鋼管の工場・炭素鋼設備全景

現在は並行して基幹システムの抜本的更新に着手している。伸管メーカーの生命線ともいえる工具（ダイス＆プラグ）は数万点に及ぶが、これまで台帳管理していたものを在庫管理システムとして自前で製作。品質をはじめ部品・工具・資材・施工の一貫管理体制を目指し、業務効率化、内部統制の強化を図る方針だ。

同社は日本製鉄が57・5％、三井物産スチールが38・7％それぞれ出資し炭素鋼鋼管、ステンレス鋼鋼管の冷間引抜加工を行っている。月間生産量は約1300トンで自動車部品を中心とした鋼管製品を製造する。幅広い製造可能範囲の中でも特に小径サイズを得意とし、ステンレス鋼を加工する「ピルガー圧延機」を生かした製品のほか、伸管後に行うロール成形（異形管）にも特長があり、付加価値の高い商品群をそろえる。親会社の日本製鉄と連携し、素材から一貫した新商品の開発ができるのも強みだ。

羽田社長は「長期ビジョンとしての100周年を目指しつつ、2029年の80周年を迎えるために、今年は重要な年になる」と位置づけた上で「安全面、環境保全に配慮しながら社員一人一人があらゆる側面で環境負荷の低減に向けた活動を行い、お客さまに信頼いただける製品づくりに邁進する」と意気込む。

現場女性社員活躍広がる
交代勤務職で採用

鶴見鋼管では2022年4月から施行された「改正女性活躍推進法」への対応強化を目指す中で、現場における女性の活躍が広がっている。21年からロッカー拡充、パウダールーム、シャワーブース、現場女子トイレを設置し交代勤務職としては初となる女性社員を採用、伸管工程に配属した。翌年には交代勤務職の新卒女性を増やし、同年夜勤をスタートさせている。

人事総務を担当する橋本深雪・管理課長は「製造現場の女性の働きやすい組織を目指している。毎年1人以上を継続して採用し、現場における女性活躍の場を広げたい」と話す。

鶴見鋼管の伸管工程に従事する根本さん㊨と先輩の緑川さん

機内でステンレス鋼の伸管工程に携わる緑川はのかさんは「製造面でのトラブルがあっても工夫して改善して上手く行ったときにやりがいを感じる。夜勤も自分に合っている」と向上心旺盛だ。同じく伸管工程をオペレートする入社3年目の根本小雪さんは「先輩を見習って真面目にがんばりたい」と意欲的。24年度も新卒の女性が入社し、鶴見鋼管の現場は活気に満ちている。